

rhizoma 等ニ於ケル觀察ニヨレバソレハ何レニ於テモ胚 Embryo ヲ經テ造胞體ノ表皮形質特ニ鱗片ヲ移行シテ居ルノガ見ラレタ。コノ針狀ノ突起毛モ腺狀突起ト同様ニ造胞體ノ特徴ニ移行シテ居ルノガ見ラレルノデアツテ、先ヅ授精ガ了ツテ胚ガ發達ヲ始メル頃ニナツテ生長點ノ附近ニ現レ漸次胚ノ表面ニ生ズル鱗片ニ移ツテ行ク。サレバコノ突起毛ハ腺狀突起ト同様ニ造胞體ノ鱗片ニ於ケル針狀毛ト平行スル特徴ト見テモヨイ様デアル。斯ル現象ハ最近 *Dryopteris* ヨリ獨立スルト考ヘラレル様ニナツタ一群ほしだ屬 *Cyclososus* LINK (例ヘバ *C. acuminatus* NAKAI) ニ於テモ見ルコトガ出來ル。要スルニ以上ノ諸點カラみぞしだヲ含ム一群ハ *Dryopteris* ヨリ分離シタ獨立ノ一屬トシテ認ムルニ充分ナル根據ガアルト思ハレル。

終リニ臨ミ本研究ニ對シ懇篤ナル御指導ヲ賜ツテ居ル中井教授ニ深く感謝ノ意ヲ表スル次第デアル。

Cordyceps 雜記

日 野 巖

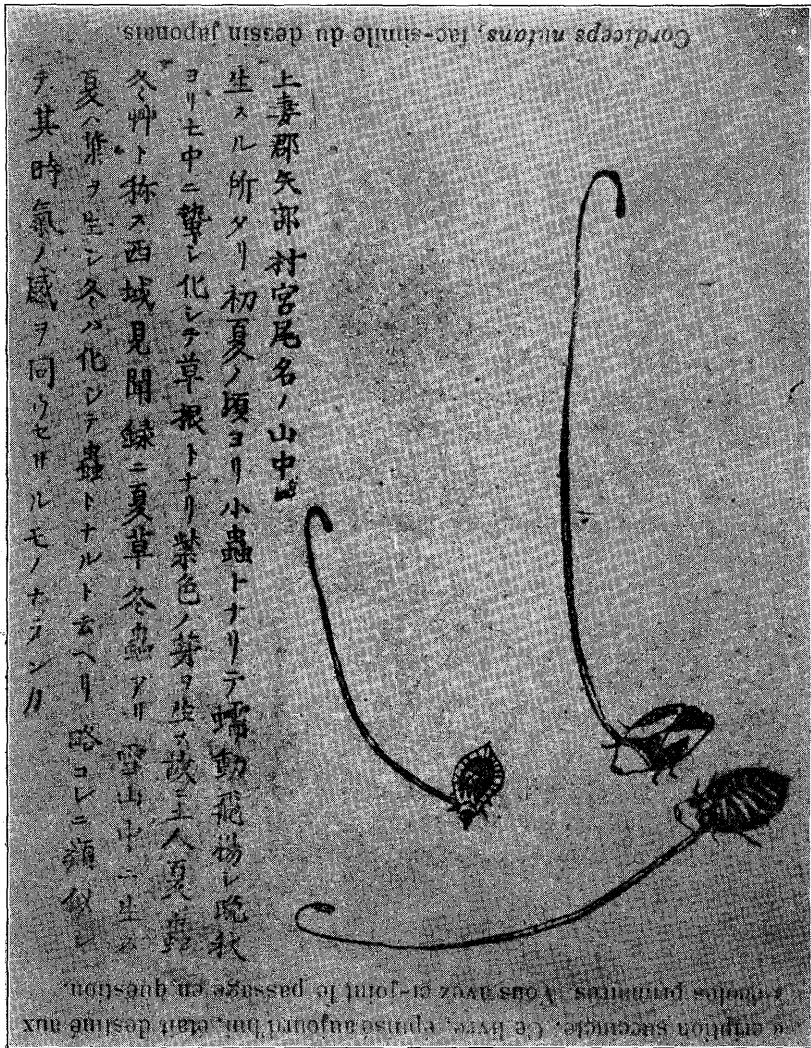
I. HINO: Notes on *Cordyceps*.

みみかきたけ

みみかきたけハ又一名かめむしたけトモ稱シ、寄主ハかめむし類ニ限ラレテキル。古クカラ知ラレテ居リ、柚木常盤ノ夏草冬蟲圖 (1801) ヤ小原良直ノ桃洞遺筆 (1833) ニモ圖示サレテキル。

ふらんす宣教師 SAURET ハ梅野多喜藏三谷有信共著ノ筑後地誌略 (1879) ノ説明ト圖ヲ見テ興味ヲ感ジ、該書記載ノ產地ヨリ其ノ實物ヲ採集シ之ヲふらんす本國ノ FRANCHET 及ビ LOLLAND DE LESHODE ニ送ツテ鑑定ヲ求メタ。FRANCHET ニ送ツタモノハ PATOUILLARD ニ轉送サレ、氏ハ之ヲ研究シテ *Cordyceps nutans* PAT. ナル新名ヲ附シ 1887 年ニ佛國菌學會雜誌第 3 卷デ之ヲ發表シタ。

其ノ寄主ハ氏ノ記載ニハかめむしトアルノミデ種名ハ明記シテナイ。ソノ種名ヲ知りタイトカネテ念願シテキタガ、先年巴里ニ長ク滞在スルノ機會ヲ得、且ツ國立自然科學博物館腊葉室ヲ利用スルノ便ヲ得タノデ、PATOUILLARD ノ原標本ヲ探スコトニナツタ。當時、植物學部分館ハ新築移轉中デ標本ノ整理モ未濟デアツタノヲ、無理ニオ願シテ探シタガ、漸クニシテ見出スコガ出來タ。ガ、

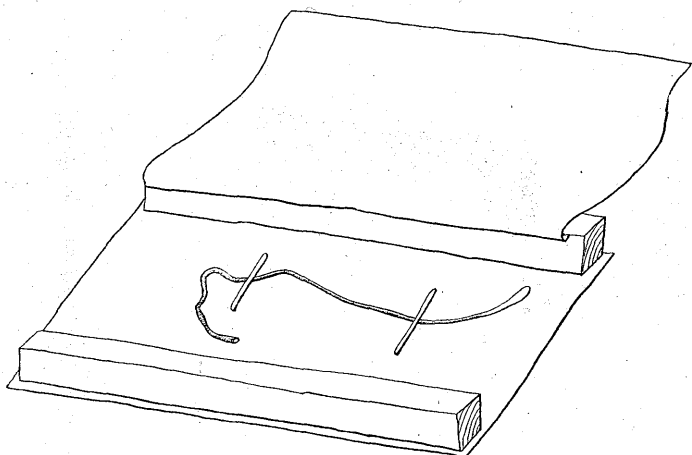


第 1 圖 筑後地誌略ノ記事 (PATOILLARD ノ論文ヨリ)

不幸ニシテ、原標本ノ蟲體ハ既ニ紛失シテキテ遂ニ寄主種名ヲ知ルコトガデキナカツタ。第 2 圖ニ示シタヤウニ保存サレテキテ、子實體ノ約 3 寸長ノモノダケガ殘存シテキタ。頂部ハ少シク赤味ガアリ、下部ハ黒ズンデキル。PATOILLARD ノ自筆デ *Cordyceps nutans* PAT. !! n. sp. Japon ト記シテアルカラ、確

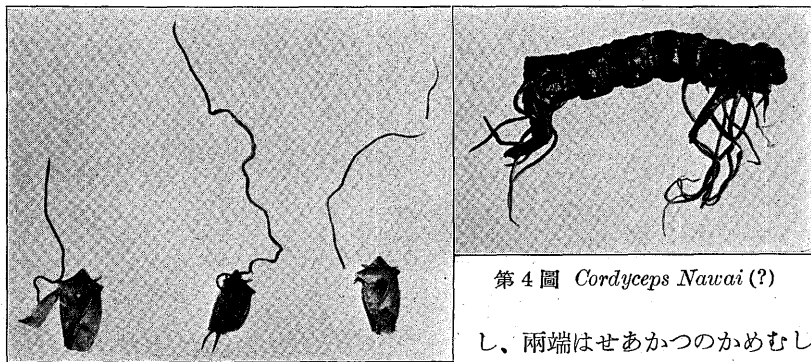
カニ原標本デアルト思フ。

同ジ臺紙ニ *Cordyceps nutans* PAT.!! Kouy-Teheou (Chine) Mr. BODINIER ト記シ、綠色ノかめむしが貼付シテアル。支那ニモ産スルモノト見エル。

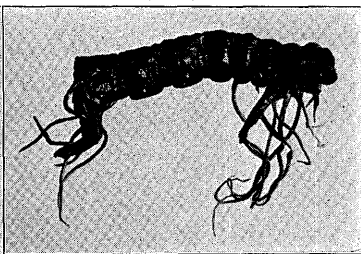


第2圖 巴里自然科学博物館ノ原標本 (日野寫)

寄主ニ就テハ江崎悌三氏ノ詳細ナ研究ガアルガ、つのかめむしノ類 (*Acanthosoma*) ヲ氏ハ採集シ得ナカツタト報ジテキル。昭和6年8月ニ牛島巧君ガ矢部村デ採集シテ私ノ學校ニ寄贈シタ標本ヲ中島茂氏ニ鑑定シテイタダクト、つのかめむしヲシイト思ツタ標本ハせあかつのかめむし (*A. denticauda*) トハさみつのかめむし (*A. labiduroides*) デアルトノコトデアルカラ同地デハつのかめむし類ニモ寄生シテキルモノト考ヘル。第3圖ノ中央ハはさみつのかめむ



第3圖 *Cordyceps nutans* on *Acanthosoma* spp. アル。



第4圖 *Cordyceps Nawai* (?)

し、兩端ハせあかつのかめむしデ

おほのむしたけ

おほのむしたけハ原攝祐氏ノ命名ニ係ルモノデ鱗翅類ノ幼蟲ニ寄生スル。氏ハ大正5年7月1日奈良縣吉野郡十津川村デ採集サレタ標本ヲ鏡檢シ、新種トシテ *Cordyceps Nawai* HARA ト命名シ昆蟲世界第20卷デ發表シタ。氏ハ子囊及ビ子囊胞子ヲ見ナカツタガ、*Cordyceps* ニ誤リナキモノトシテ命名シタノデアル。

先年、宮崎縣兒湯郡東米良村ノ郵便局長奥松氏が私ヲ訪問サレ其ノ節 *Cordyceps* ラシイモノノ標本ヲ贈ラレタ。同氏ノ夫人ガ同村大字銀鏡字古別當デ採集サレタモノデ寄主ハ同地方言デまるがしらト稱スル鱗翅類ノ幼蟲デアル。尙、同地デハコレガさるかき(さるとりいばら)ニ化スルモノデアルト俗説ヲ有シテキルト云フ。採集月日ハ昭和7年7月1日トノコトデアル。

コノ菌ヲ仔細ニ見ルニ、原氏ノ記載シタおほのむしたけニ極メテ類似シテキル。子實體ハ未熟デ子囊ヲ檢出スルコトガデキナカツタノデ確言ハデキナイガ、先づおほのむしたけト考ヘテ差支ガナイヤウニ思フ(第4圖参照)。

稀菌ノ新產地トシテ報告シテ置ク。

Cordyceps Lacroixii

佛國國立自然科學博物館ノ腊葉室ニ *C. Lacroixii* ノ type モアル。原標本ハ子實體ハ帶黃色デ頂部ガ黒ク長サ4寸5分餘ノモノデアル。鱗翅類ノ幼蟲ラシイモノニ寄生シテキル。コノ臺紙ニ *Cordyceps Lacroixii* HAR. ET PAT.!! Typus Japon Mr. LACROIX 1902 ト記シテアル。日本産品ガ type ニナツテキルガ、コノ菌ガ日本ニ産スルコトハ他ニ記録ガナク、白井博士ノ日本菌類目錄ニモ記シテナイ。ソレデ勿論和名モナイ。HARIOT ト PATOUILLARD ノ記載ハ佛國學會雜誌第20卷(1904)ニアルガ、日本ニ於ケル產地ガ明記シテナイ。記載ヲ轉載スルト、

“C. Stomate erecto, simpliciter, usque ad 20 cm alto, 4 mm crasso, rigido, glabro, subtereti, sordide fusco, superne obscuriori in partem peritheciigeram apice obtuse attenuatam, 2-5 cm longam, in sicco atram, laevissimam, regulariter linguiformi-dilatato (6 mm); peritheciis omnino immersis, confertis; ascis sporidiisque generis.

Hab. in larvis Lepidopteri ejusdam in Japonia. Nobis communicavit el. Lacroixii, Musei Parisiensis professor. *Cordicipiti Hugelii* CORDA affinis sed clavula atra omnino laevis.”

トアリ、不鮮明ナ寫眞ガ添ヘテアル。寫眞ト同様ナ標本ガ現存シテキル。

LLOYD ニヨルト、本菌ハ濠洲及ビ Tasmania ニ産スル *Cordyceps Gunnii* BERK. ト同一種デアルト云フコトデアル。

本菌ガ一日モ早ク本邦デ再發見サレルヤウニ祈ツテキル。

いづせんりやうノ果實及花ノ觀察

久 内 清 孝

K. HISAUTI: Fruit and Flower of *Mæsa japonica* MORITZI

偶然ナ事カラいづせんりやう (*Mæsa japonica* MORITZI ex ZOLLINGER: Syst. Verz. Ind. Archip (1854) p. 61) ノ果實ヲ見ル氣ニナリ之ヲ約2升程蒐メテ見タ所、果頂中央ニハ花柱ノ殘存物ガアリ、之ヲ周匝シテ5枚ノ舌狀片 (Fig. 1) ガアツタ。其結果此ノ果實ハ特異ナ形式ヲ表現シテ居ル。牧野先生ハ本誌第V卷9號ノ口繪ノ説明デ「白色圓形ノ漿果ヲ綴リ宿存セル花冠ヲ其果面ニ被ルノ殊態ガアル」ト述べラレ、金平博士ノ近著臺灣樹木誌 (1936) p. 568 ニモ漿果トナツテ居ル。SWINGLE 氏ガ A Text Book of Systematic Botany, p. 27 デ云フ通り、若シ果實ノ形態様式ガ分類上餘リ重要デナイトスルナラ、コンナ塵埃ニ均シイモノヲ何ント云ツテモヨカラウシ、其結果ガ人文ノ發達ニ大シタ效獻モシマイカラ、ドウデモヨイガ、然シ本片役人ガ法文ノ適用ヲスル場合ニ於ケル如ク、杓子定規的ニ見ルトいづせんりやうノ果實ハ純然タル漿果デモナササウデアル。ト云フノハ問題ノ5枚ノ舌狀片ハ萼片ノ殘存物デアルカラデアル。

ソコデ此問題ガ從來諸家ニヨリ如何様ニ取扱ハレテ來タカヲ見ヨウ。

元來いづせんりやうハ THUNBERG 氏ガ Flora Japonica p. 6 & 84 及ビ Icones Plant. Jap. Decas II (1801) デ *Doræana* 屬ヲ新設シテ *D. japonica* TH. ト命名シタニ始マル、其後 DE CANDOLLE ハ Prodormus VIII (1844) p. 77 デ TH 氏ノ *Doræana* ハ FORSKAL ガ Flora Aegyptiaco-Arabica (1775) p. 66 デ *Mæsa* トシタモノト同ジデアルト見テ “*Doræana* THUNB. genus valde dubium” ト指摘シ、ZOLLINGER ハ Systematisch Verz. Ind. Archip (1854) p. 61 デ *M.?*